

95歳まで生きるのは幸せですか？ (PHP新書)

95歳まで

瀬戸内寂聴

生きるのは

池上彰

幸せですか？

PHP
新書
1112

池上さんが
寂聴さんに聞いた、
「老い方のレスピン」

PHP SHINSHO

発売日: 2017年10月13日

出版: PHP研究所

著者: 瀬戸内 寂聴, 池上 彰

「老後」と呼ばれるほど長生きできたとしたら、生きていだけで儲けもの。老人らしく生きる必要はない。自分らしく生きよう。波瀾万丈の人生を送ってきた95歳の作家、瀬戸内寂聴に、ジャーナリストの池上彰が「老後の心構え」について聞く。内容例を挙げると、出家をして余生を生きるのがラクになった。歳を重ねて、ますます体が肉を欲する。楽しみを見つけたら、病床の鬱が吹き飛んだ。いただいた命だから大切に生きる。長生きをして何を？ 何歳まで働く？ 「老い方のレッスン」があったら何を学びたい？ 等々。また、池上彰氏はあとがきで次のように述べる。「“豊饒な人生経験”を経たからこそその言葉の重み、寂聴さんの一言一言に私たちが頷くのは、そんなところがあるのではないのでしょうか」（「おわりに」より）。超高齢社会を迎える日本で、長生きすることは本当に幸せなのか？ 誰もが避けることのできない「老い」や「死」について考える。

<https://rapidgator.net/file/68f8630243066eb74840d6d0a50b724c/lqcV5h2Ap.pdf.rar.htm>

!